

呉まちなか公共空間デザイン会議（第1回） 摘録

1 日 時 令和5年10月2日(月) 14時30分～16時40分

2 場 所 呉市役所2階 防災会議室

3 議事の概要

14:30

【開会挨拶（新原市長）】

この度は委員を引き受けて下さり、大変ありがとうございます。私は長く呉市外にいたこともあり、呉市の堺川沿いには素晴らしい川と公園、誇れる景観があると思います。しかし、大変残念なことに、あまり人が歩いていない、今以上にウォーカブルなまちにしていきたいという思いがあります。

従来、呉市役所は、どちらかというと、市民の方から意見をいただくというより、自分で考え方をまとめて、それを市民の方に受けていただくというやり方だったように感じています。マーケットインとプロダクトアウトという話がございます。供給者側の考えでつくったもの、つまり、プロダクトアウトにするとマーケット、つまり、使う側に結局使ってもらえないので、使う人の気持ちになって、マーケットインで作らないといけなと言われていています。

委員の皆様は是非、場の空気を読むことなく、思いきり発言して下さい。

市民代表の方にも参画をいただいております。無作為抽出で選ばせていただきました。これまでも市が設置している色々な会議で、同様に無作為抽出で市民代表の方に委員になっていただいております。ここの中の空気を読むのではなく、生活の中で日頃思っていることをそのまま話していただきたいと思います。

市民代表以外の委員の皆様も、それぞれの方々が、それぞれの分野を踏まえて、会議が終わった後で、後悔することがないように思いきり発言していただきたいと思います。

当然、同じことでも賛成、反対の両方の意見が出ることもあると思いますが、ここでご議論していただきたいと思います。色々な立場の方から出来るだけ多くのご意見をいただくことで、素晴らしい計画や取組ができると思います。

ビューポートくれの前や市役所からの眺めはとても素晴らしく、外国からも評価を受けることのできる公園だと思います。最後は大学の先生など専門家の方々と相談しながら、計画としてまとめることになるとは思いますが、皆様のご意見でより良いものになるよう、その基を作っていたきたいと思えます。事務方が計画のとりまとめに困る程のご意見をどうぞよろしくお願ひいたします。

14:35

【委員の紹介】

「資料1 呉まちなか公共空間デザイン会議名簿」の順に委員を紹介

14:37

【座長・副座長の選任】

「資料2 呉まちなか公共空間デザイン会議設置要綱」の規定により座長及び副座長を選任。委員の互選により田中委員を座長に選任。田中座長の指名により相川委員を副座長に選任。

14:40

【議事1～3】

「議事1 取組の背景及び目的について」、 「議事2 公共空間の管理・運営及び整備に関する取組事例」、 「議事3 計画対象エリア及び施設の状況について」に関して事務局より一括して説明（資料3 まちなか公共空間の管理・運営及び整備に関する基礎資料）

15:20

【議事4】

〔田中座長〕

「議事4 これからの公共空間の管理・運営及び整備に関する意見交換」を行う。これからの公共空間においてどのような機能を誘導し、どのような空間にしていくことが必要か、そのためにどのような取組を行うことが必要なのかご意見をお願いしたい。

取組については、居心地の良い空間、歩きたくなる空間とはどういったものか、そこでどのように過ごすか、また、どのように利用されるか、必要な機能や仕掛けはどういったものか、呉らしさとは何かなど、資料3の最終ページの内容を参考として、これまでの取組や経験を通じ

て考えられることをご意見いただければと思う。

意見交換における主な意見は次のとおり

都市再生推進法人 SYL と共同でこの街の調査をここ数年間行ってきた。昨年度は、「呉市に世界に誇れるかっこいい公園を作ろう！」という SYL からの提案をきっかけとして、広島大学と共同で調査を行っており、その話をさせていただく。

対象地である蔵本通り中央公園は、特に平日は閑散としており、商店街に人は来ているものの、川沿いから公園のあたりは人が少ない状況である。SYL 主催の「あさまち」等では、多くの来訪がありポテンシャル自体は高いと感じている。調査では、「人流データを用いた調査」、「アクティビティ調査」、「公園利用に関する住民アンケート調査」の 3 つを行った。

「人流データを用いた調査」及び「アクティビティ調査」からは、市役所に一番近い 8 ブロックの利用者が一番多く、遊具等の「物がある所」に人が集まっていることがわかった。他のブロックに関しては、歩道に人が多く、8 ブロック以外は主に通行目的が多い状況である。また、中高生の利用が少ない状況であった。

「公園利用に関する住民アンケート調査」のうち、中央地区の居住者の回答の一部を紹介する。中央公園にあったら良いと思うもの、ベスト 3 を挙げると、キッチンカーやコーヒースタンド等の「飲食サービス」、「Wi-Fi スポット」、食事や読書をする「テーブル・イスセット」であった。

以上をまとめると、8 ブロック以外は、通過が目的となっていること、中高生の利用が少ない特徴があり、今後「飲食サービス」や「Wi-Fi スポット」など新たな機能が求められていることがわかった。

これらのことから、「もの（サービスや施設等）」の存在が、この場所の利活用に繋がるのではないかと考えた。アメリカのブライアントパークでは何もない空間作っておくと、自発的に多様な利用がされるが、日本はきっかけになるような「もの」が仕掛けとしてあった方が良いのではないかと思われる。

それを受けて、「もの」として、コーヒースタンド、テーブル・イスを公園（5・6 ブロック）へ配置する社会実験を行った。実験中は、飲食を楽しむ方や、パソコンで作業をされる方のほか、絵を描かれる方もい

た。社会実験中と平常時で滞在者数も違い、来訪者へのアンケート調査からも良好な評価を頂いている。これらのことから、ちょっとした「もの」があると状況が変わってくるのがわかった。

以上の分析や実験を受けて、「呉百人会議」でこの公園に関心のある住民の方々のご意見も伺いながら、今後の公園のビジョンを検討している。コンセプトを「全世代が日常的に楽しめる公園へ」とし、「使われ方をデザインする」必要があるのではないかとということで、「動詞」によってブロックの特性を位置付けることとした。全ブロック共通で「憩う」「歩く」とし、ブロックごとに「動く・感動・くつろぐ・表現・学ぶ・試す・食べる・遊ぶ」の動詞を示した。このように特徴ある「もの」がブロックごとに埋め込まれていけば、全世代が日常的に楽しめる公園が実現するのではないかと考えている。

これと並行し、専門家の方に集まっていたいで、ワークショップを行ったが、多くの意見として、堺川の向こう側が「街の裏」になってしまっているという指摘があった。このことから、堺川両側は、「街の表」になっていくべきであり、それが、「街全体の回遊性の向上」「にぎわいづくり」というところに繋がっていくと思う。

これらの調査を次のステップへ進めていくため、「飲食機能」や「テーブル・椅子」、「無料 Wi-Fi」を設置し、公園だけでなく周辺も一体的に活用できないかと考えている。一気に何かをするというより、小さな取り組みを継続的に重ねていくことによって、「アクションとそこからのフィードバックを繰り返して将来像を目指す」、また、「小さな取り組みの延長線上において公園を使い倒す」ことができないかと考えている。

そもそも中央公園に興味を持った理由であるが、私は学生までは呉で育ち、その後、10年間まちを離れた後に、呉のまちに戻り、中通で商売を始めたところ、学生の時と雰囲気が変わっており、よく遊んでいた公園に誰も人がいなくなっていたことに気がついたことであった。この公園はとても良い公園であると感じており、何かイベントを開いてみようと考えた。

10年間離れていた間に、海外も回っていたので、日本の朝市をはじめ、フランスのマルシェ、イギリスのマーケットなどを多く見てきた。そこで、「待ちきれない朝に」ということをコンセプトに「あさまち」という、おしゃれなマーケットを組み合わせた大型のマルシェイベントを

企画した。2015年から、約半年に1回、現在まで15回開催している。最初は呉市外の事業者が多い状況であったが、今となっては90%以上が呉市内の商店主となっている。

「あさまち」は、単なるイベントではなく、「公園は素晴らしい空間なので、いろんな使い方ができた方がいいよね」ということを実証することが活動の目的となっている。また、周辺経済の活性化も目的だった。

結果的にこれが呉市内の既存店や事業者の魅力の発信や事業者同士の連携、イベントを通じた新規事業者のチャレンジの場づくりに繋がっている。呉市は様々な課題を抱えているが、公共空間という場を使いながら、それらの課題解決を行うことを意識している。

イベントを始めた当初に、「10年後の呉がこんな街になっていたら素敵だね」と考えた。一日だけの非日常が、いつかは日常にしたいと考えており、「にぎわいの日常を生む」というか、すごく頑張らなくても「適度なにぎわいが生まれるエリア」を目指している。

また、民間事業者や市民が公園を使うことは、なかなかハードルが高い。これが緩和されれば良いと思う。公共空間の使用では、手続きが非常に多いため、「ワンストップで手続きできる」ようになると良い。前例がないことに対する市民の消極性、チャレンジの気持ちが削がれないようなムードづくりに努力している。

先ほど川の話があったが、他の地方都市だと「川を中心」に街ができあがる場合が多いのではないかと思う。呉市では、実際川沿いの路線価が低いと思われる。そういった点で、川向うも一体となって、例えば、この川沿い駐車場が本当に必要かどうかも含めて検討していく必要があるのではないか。それによって、次のアクションも変わってくるのではないかと思う。

私たちは、2016年に呉の展望を描ききる集団として設立した一般社団法人である。

「UNITED PARKS 構想（蔵本通り再生プロジェクト）」を2018年に作成した。対象としているのは4ブロックから8ブロックまでで、五つの各ブロックにテーマを持たせた構想となっている。8ブロックは「芝生、遊びの公園」、7ブロックは遊びの中でもスケートボードなどの「ストリート」を意識した遊び、6ブロックは「フード提供する公園」、5ブロック

は図書館が目の前なので「アカデミックな感じのライブラリーカフェ」がテーマ、4ブロックは劇場のような設えの公園なので「アートや芸術に触れられる公園」がテーマとなっている。

また、例えば、川沿いに眺めの良い建物をつくって、事業者への賃貸等をしてはどうかと考え、建築物は呉らしさを出すため、「造船技術〜鉄」を使った建物を建ててはどうかと考えている。

この「UNITED PARKS 構想」を掲げただけでは皆さんに伝わりづらいので、この構想が実現するとどのような風景が見られるのだろうかということを経験していただく社会実験イベントが「街の森のアトリエ」であり、今年の11月にも開催する予定である。

また、今年の4月からは、月に1回、蔵本通りの公園を清掃しながら、公園のことを話し、関係者の繋がりをつくる取組として「GREEN DAY」という活動を行っている。

こういった活動を通じて課題として感じている点として、イベントの趣旨を伝えきれていないことや固定的なメンバーで新しい風が入りにくいことがあげられる。今後は、来年春に広島国際大学に新たに創設される学科の学生とイベント等を共同で開催するなど、若い方が活躍できるような取組を考えている。

また、今後の具体的な動きとしては、SYL との共同事業で、8ブロックにある売店跡地の実験的な活用（トライアルサウンディング）に取り組んでいくこととしている。

これまでのお話から、それぞれ活躍され、実際にこの公共空間を使い、既に課題や問題点を認識され、次のステップに進まれようとしているというのが感想である。

お話からは、道路交通法などの法律に基づく許認可手続きにハードルを抱えていると感じた。ハード整備よりはそういった仕組み、手続きを円滑にする事ができるのか議論していくことも重要であると思う。

私は地方都市のまちづくりの支援をさせていただいている。ある地方都市でウォーカブルなまちづくりを進めていく中で、ウォーカブルなまちづくりには新しい公共交通が重要であると考えた。一つは船で、もう一つは「パーティーバイク」であり、そのパーティーバイクを走らせて、まちなかに皆さんに出させていただいて、どういう行動をされるのか検

証してみようとした。

パーティーバイクは、道路交通法上、自転車や車両といった定義がないため、結果として道路を走行することはできず、行政の管理する部分的な空間のみでしか走らせることできなかつた。そういう、越えていけない壁のようなものをしっかり議論をしていきながら、バリアなく、使っていけるようなことをしっかり議論していけたらと思う。

昭和 58 年の計画から現在に至って、空間そのものの再編もさることながら、機能や公園の活用方法が当初と変わってきている。公園を盛り上げるテクニックとして、光の使い方や、緑に対する考え方が変わってきている。そう考えた時、現在の公園は暗いと感じる。

また、八つのブロックに分かれていて使いにくいのではないかと思います。道路の機能を公園に移し、二つ三つの公園空間を繋げてしまうという考え方もあると思う。例えば、大阪の中之島では土日に限って、車を入れないようにしている。そうすると、その中で自由に動けるようになり、子どもを安心して遊ばせられるような環境が整う。

それを踏まえて、今の公園がなかなか使われない、また、印象に残らないか考えた時、通るという機能が弱いのではないか。国道 31 号あたりから市役所まで、ひとつのブロック、通路をつくって、公園としての普段使いとリフレッシュしながら歩けるようにしてはどうか。元々ウォークアブルがコンセプトでもあり、そういう機能も併せて考えていくのも有りだと思う。現在、工事で市役所付近の橋が一箇所通行止めとなっているが、ほとんど影響がないという状況であると思うので、あと三本くらい橋を止めても大丈夫ではないかと感じる。

そういった空間の一体化や、呉駅周辺地域の整備で居住者が増える可能性も踏まえ、住んでいる人のための公園整備もあるのではないかと考えている。

商店街の観点から、蔵本通り中央公園がこの会議を通して良くなる、歩きやすくなるのは大賛成である。私は職場と家がこの公園の近くにあるが、公園はほぼ使わない。日々使っていない状況である。公園は、夏は暑く、冬は寒い。また雨も降る。そういった意味で、日常使いで近隣

の方が公園を訪れるのか、少し疑問を持っている。

例えば、過去に現代アートの展覧を中央公園で行ったことがあるが、駅から自然に歩いてしまうような、美術館的なものであるとか、オブジェ等があれば歩くのではないか。造船技術を生かしたオブジェがあると観光客にも評判が良いのではないかと思う。

普段使いに関してとなると、広地区にある広公園は子どもが多く、利用者が多い。無料の駐車場が整備されており、車で訪れる人もいる。

今、護岸に駐車場があるが、例えば、その駐車場が無料になるなど、公園へのアクセス性が良くなれば、公園を使ってくれるのではないか。

最後に、公園の中にあって今後、一番直していかないといけないのはトイレである。公園の中に三カ所トイレがあると思うが、古い。日常的に公園を利用される方がトイレを使おうとしたときに、きれいなトイレがあると良い空間であると思う。

私は普段は広公園を利用することが多い。公園に子供を連れて行こうと思うポイントとして、駐車場の有無などアクセス性は大きなポイントとなる。なるべくお金をかけずに過ごそうと考えるので、駐車場は、できれば無料が良い。

また、子供が好きな遊具があるか、広さはどうか、安全な環境か、道路に飛び出していないかなどがポイントとなる。先ほどもお話があったが、特に、子供が使いやすいトイレなど広いトイレがあると良い。二人同時に連れて行ったり、荷物を持って行ったり、ベビーカーであったりするので広いトイレが良いと思う。また、おむつ交換台があるかどうかなど、そのような配慮があり、加えて清潔面が重要なポイントとなる。また、清潔さという点では、ごみがきれいに管理されているか、ポイ捨てが多いとか、鳥の糞であるとか、そういう衛生面も気にしている。

中央公園は、色々活動があっという間と思う。先程のお話でブロック毎のコンセプトのイメージが紹介されたが、「このゾーンはこういった機能」ということが見えてくるのはすごくいいと思った。ここに行けば芝生がある、本が読める、カフェがあっという間とゆっくり過ごせるといったようにそれぞれのゾーンの特性を生かして、何かあるのはいいと思う。

その他、今の公園は日陰が少ないと思う。大きな木や自然があまりない。更地みたいなところに遊具が置いてある所が多いので、もう少し木があることと、加えて、例えば水が汲めるところや、自然に触れられるものがあればいい。座れる場所、ベンチやイスがあり、そこに日影があると、滞在時間が長くなると思う。ゆったりと時間を過ごしたいと思えるようなものがあればいいと思う。

中央公園は遊具があるところにはよく行くが、道路を越えないと別のブロックへ行くことができないため、その他のブロックへはあまり行かない。例えば、他のブロックなどに何があるか分かれば行ってみようと思うかもしれない。また、今は少し散策しにくい道路もあるが、それが散歩しやすい道になっていれば、もう少し他のブロックや周辺へもまわってみようかなという気持ちになると思う。

公園などの屋外空間は、暑さ・寒さの影響が大きい。呉市内で室内遊びが出来る場所がなかなか無いと感じている。外遊びの公園以外の場所が少ないので、屋根があるなど天気に関係なく遊べる場所があると良いと思う。

最後に、過去に公共施設でのイベントを企画したことがあるが、どこに相談したら良いかもわからないし、一般の人が何かをするのはとてもハードルが高い。例えば、得意なハンドメイドをみてもらおうと思ったときに気軽に公園で披露が出来るなど、もっと簡単に使用できるような窓口ができると良いと思う。

中央地区外の居住者からすると中央公園の認知度が低いと思う。どんぐり公園（8ブロック）だけが中央公園だと思っていた。南側（1ブロック）までがずっと公園であるとは知らなかった。ちょっといい歩道だと思っていたため、そこで何かをするという概念がなかった。呉の中央地区に住んでいる方たちは、公園だと分かっているかもしれないが、他の地区から来た方は、全部公園であるとは知らないのではないか。まずは、ここが公園と認知されれば、みんなが使うようになるかもしれない。

例えば、各ブロックなどの使用例みたいなもの、過ごし方の例を示すと分かりやすいと思う。例えば、「図書館の前なので借りた本を読んで過ごしました」であるとか、「テイクアウトして過ごす良かった」などが考えられる。先ほどのお話で、中高生の利用が少ないとあったが、ボー

ル投げ禁止など公園の使い方の規制が多いことも影響しているのではないかと思う。私の住んでいる場所の近くの公園は、もう少し自由な使い方ができていると思う。そのような規制が多い空間で育ち、且つ、歩道なのか公園なのか分からない空間で過ごそうと思うと、使い方が分からないのではないか。中高生は、興味を持って自分たちで色々な所に行き始める年齢で、使い方の提案をして、それが彼らに響くと、その使い方は大人になっても継続して使われていく。そうすれば、公園を使っていく文化が呉に根付くのではないか。その結果、将来も公園としての機能を持ち続けるのではないかと思う。

その他、公園を始めとして、木が多いので、昼間はきれいであるが、夕方以降は、歩こうと思ったら防犯面で怖いイメージがある。蔵本通りの歩道と車道や公園の間の植栽が伸び過ぎていて、視線が遮られていて怖い。

最後に、図書館から横断歩道を渡ることなく、2階デッキから公園に直接アクセスできるようであればいい。学生が勉強をしたり、コワーキングができる場所となり得るポテンシャルはあると思う。

広島市で育ち呉の詳しい状況はわからない部分もある。子供を公園に連れて行くことを考えると、砂ではなく、芝生がある公園だとありがたい。最寄りの芝生がある公園は、呉市からは離れているので、近場の中央公園に芝生を敷けば、ボール遊びなどもっと自然を使いたいと思えるような場所になると思う。その他にも、子供が遊べる空間（ゲーム部屋）を作ってはどうか。そうすれば、親が迎えに行きやすく、帰りに商店街を利用して帰ることも考えられる。

先ほどのお話にもあったが、駐車場を無料化することは利用者からは良いことであると思う。単に無料にするのではなく、商店街で買い物をすると無料化なども考えられる。

また、呉市はイベントが少ないと思う。だれでも参加できるイベントがもっと増えるといいと思う。撮影会、握手会など、子どもが呉氏等のマスコットと触れ合えるイベントがあれば、呉市の活気が伝わり、遠方から来る人も増えるのではないかと思う。

呉の高校に通っていたが、公園付近は、夜は怖いという印象があり、呉駅の近くまで行けば安全だと感じていた。

大人になって友人と飲食店などに行くことがあるが、川を見ながら友人と会食が出来るなど、川を表に出していくと良いと思う。階段などで座って会話できる空間も良い。

高校生がカフェで勉強することも増えているため、そういった施設が公園内にあれば若い人たちも公園へ来るのではないかと。

韓国では、どの公園にも運動器具が設置してあり、いろいろな年代の方が居て、交流をしているのを実際に見て、呉もそういう運動器具などを増やしていけばいいのではないかと思う。

また、芝生は本当に大事だと思う。芝生があれば、高校生が寝転んだり、家族連れの方もみんなですべて座って写真を撮ることができる。特に若者は「映え」を重視するため、緑が多ければ良いと思う。

今の公園は、素晴らしい歴史があると感じている。これを新たに作り変えるのであれば、日本中から来なくなる公園ができないかと思う。呉市はこれから観光に力を入れるということなので、どうすれば、日本中から人が集まるのかと考えた時、いろいろなものを変えなければいけないのではないかと思う。

先ほど、道路の一部を歩行者空間化するお話もあったが、例えば、国道31号線より北側で、東西方向の橋や道路を歩行者専用通路にする、また、川向こうの駐車場も一体型の公園にする、加えて川の上に広場空間を延ばして公園の幅を広げるなど、川を取り込んで一体的な公園にすることが考えられる。そうすると、いろいろな可能性があるのではないかと感じた。

確かに現状で言えば、中通側からすると裏通りのようになっており、暗いイメージがある。この会議で考えて、どうすれば、日本中から人が来てくれるのかという視点で考えていければ良いのではないかと。

コンセプトとしては、インクルーシブなみんなの空間を提案したいと思う。年齢、性別、障害の有無に関係なく、また例えばペットを連れての方、外国にルーツを持つ方など、多様な方が安心して過ごせる空間づくりができれば良い。

イベント以外で日常的に賑わう公園づくりなどのアイデアのうち、まず、整備や改修が必要なものとして次の点を提案したい。

常設のオープンテラス、テイクアウトも可能なカフェの設置などができたら良いと思う。屋外のテラス席はペット可、また、子ども連れ、高齢の方、障害のある方が使いやすいさまざまな形状の席やユニバーサルデザインの席を設置する。また、例えば、障害のある方を雇用する等の運営方法も検討してはどうかと思う。常設カフェがあるエリアについては川沿いの駐車場をなくして、川との景観を重視したデザインとすることも考えられる。

近年では、年齢や性別、障害の有無などに左右されず、どんな方でも遊べるようなインクルーシブな遊具の設置の例があるとも伺っている。

そのほか、植栽についてもコンセプトを持ってエリア分けし、景観や休憩、自然遊びを意識したものにしてはどうかと思う。例えば南側にある2ブロックの噴水エリアをビオトープのようなものにする、若しくは、夏に水遊びができる空間にする、また、今、緑陰が多くある空間は、木陰にベンチを設置することを進めてはどうかと思う。

加えて、案内、サインについても、分かりやすいピクトグラムにして、日本語が読めない方や小さな子どもでも理解できるデザインとしてはどうか。

次に、今のままでも実施可能なものとして、使い方やルールなど、市民の話し合いの場を設けることや、定期的なクリーン活動を行ってみてはどうかと思う。例えば「親子クリーン活動」「ペットとクリーン活動」など、テーマを決めるなどすると参加しやすいのではないかと思う。

そのほか、フォトコンテストを実施すれば、写真を撮る人がこの場所へ来訪し、写真を見ることで他の方にも公園の良さを知ってもらうことが出来るため、広報につながると思う。街の中での自然を見つける企画として、野鳥観察や樹名板づくり、ネイチャーゲーム等の企画を定期的に、呉市のボランティア団体等と協働して行うことも考えられる。スタンプラリーなどのあるマップなどを作り、公園を訪れてもらうきっかけ

を作り良さを知ってもらうこともできるかもしれない。

続けて、イベントを実施する際の提案として、イベント利用について、利用方法を分かりやすく HP など提示することによって、これまで使用したことがない人が使用しやすくなると思う。また、イベントが一目でわかるポータルサイト、イベントカレンダーがあると良いのではないかと思う。

そのほか、新しい取組として、市民の方は「中央公園」という名称に馴染みがないと感じるため、名前を公募で決めてはどうか。

空間の分断の話については、将来的には、例えば南側の1～4ブロック、また、北側の5～8ブロックの間の道路の一部を歩行者専用として動線を確保し、川沿いの散策をしやすくなると思う。

公共空間で新しいことをすると様々な管理許可が必要でありそのハードルは改善していけると良いと思う。公共空間の活用に関しては、民間事業者の参入などが徐々に可能になっているので、今日のような公式の場で決定した取組を進めていけると良いと思う。

個人的な思いとして、芝生はいいなと思う。広島市では中央公園西側の太田川沿いの空間が広い芝生になっていて、散策やバーベキュー等色々な使われ方をしている。国が管理しているところだが、きれいに芝生が生え、広々として、座っているだけで気持ちいい。

堺川であれほどのスペースはとれないが、ブロック間の橋を一つか二つ歩行者専用化し、ブロックを大きくしてもいいのではないかと思う。その空間の中で、例えば、蔵本通りの歩道側から川に向かって芝生を敷いて、そこにコンテナや飲食施設があり、川沿いにベンチをおいたり、木陰をつくったり、きれいなトイレを整備する。また、屋台を訪れた人が川のほとりまで行って、テーブル・椅子で食事が出来たりする、夜は川側に行くと暗いので、灯りをつけ、明るい空間づくりができるようになれば、魅力が高まるのではないかと思う。

川向うの利用は、今は車が並んでいる状態であるが、一体的なコンセプトで何かできれば良いと思う。今のままでは少し勿体ないと感じるので、駐車場以外の使い方も何かできないかと思う。

今回検討される中央公園を始めとした空間は、呉市の中で最も立地が良い場所でありながら、先ほどお話があったようにあまり使われていない状況にある。公園等の空間が誰のためにあるのか、使っていただいて、公園等の空間の価値が高まると考えている。

これまでは、公共が主導で空間の整備・管理をしてきた経緯があるが、これからは住民の方々が主体となって管理、また、整備をしていただくような空間であるべきだと考えている。その際に、行政としては、法のルールの中でどのようにしたら、やりたいことを実現できるのか、法の整理などそういったことをしっかり取り組んでいきたいと考えている。

〔田中座長〕

本日は多様な意見を頂いた。

コンセプトとなる考えとして、日本全国から人が来る場所、インクルーシブ、多様性、また、このような考えを実現するためにも、シンボルになる名前が必要なのではないかとのご意見をいただいた。

機能的なこととしては、トイレ、子供が遊ぶ場所、活動する場所、中高生が勉強できる場所、運動器具、オープンテラス、ビオトープ、カフェ、テーブルなどがあり、印象的だったのは、日陰・木陰を挙げただいた方が多かったと思う。最近は暑くなってきたので、子ども達が遊ぶ空間としても木陰が大事なのかなと思う。

公園を使う文化をつくっていくというご意見は印象的だった。この中には制度的なルールも含まれるであろうし、盛り上げ方や過ごし方の例、クリーン活動・野鳥観察など、公園を使う文化をつくっていくということに向けたアイデアをいただけたと思う。

また、空間を繋いでいく視点が大事だという点を、数名の委員からご指摘をいただいた。現在8ブロックが分かれているが、この全部、または一部を「繋げていく」ということ。また「堺川の両側をつなぐ」というご意見であった。

加えて、まちづくりとの連動が大切であるとのことご指摘をいただいた。自然にそこを歩く仕組みをつくっていくこと、川が「表」になるような仕掛けをまわりのまちづくりと一緒につくっていくこと、以上のような

ご意見をいただけたと思う。

〔新原市長〕

日本中からだけでなく、これからインバウンドもあるので、世界中から来てもらうようにしていただきたい。また、最近まで、市役所の隣の公園だけでなく、この川沿いの空間も中央公園という名前であることを実は私自身も知らなかった。

【議事 5】

「議事 5 今後のスケジュール」について事務局より説明（資料 4 今後のスケジュール）

〔田中座長〕

スケジュールが少しタイトな印象を受けるため、しっかり議論が出来れば良いのではないかと思う。事務局において検討をいただければと思う。

16:35

【閉会挨拶（江田副市長）】

本日はご意見をいただきありがとうございました。この検討をするにあたり、事務局といろいろ議論してまいりましたが、現状こんなところが残念だよねとか、こうなったらいいよねと話をしました。公園がブロックごとに分断されていることも我々でも話をして、今、弥生橋の通行止めをしておりますが、あまり問題が無さそうだという話もしました。今日いただいたご意見は、まさに我々も議論をしていたので、同じような感覚を持っていただいているのだと、非常に心強く思いました。

冒頭でも申しましたが、この公園は昭和の時代に作られたものでございます。近年、国において様々な制度緩和がされており、車中心の空間から人中心の空間への転換を図るため、車道の車線数を減らして、歩行者用の空間へ変えていくことが全国各地で行われています。それを呉市は 30～40 年前から先進的に取り組み、6 車線の車道を 4 車線にし、歩道

空間を広げ、景観形成においても、非常に緑豊かな景観を作って都市景観大賞も受賞しております。

そこが出発点ではございますが、やはり今、この時代のおかれた価値観の中でどう利用していくのか、そういうことが非常に重要になっています。この場所は、中央地区の重要な場所で、市役所があり、文化ホールや図書館があって、堺川のような水辺のいい空間もあって、そこを貫く場所なので、ここを市民、それから外から来られる方にとっても、魅力があって、歩きたくなる空間に、どのようにするのかということをご皆さんにぜひお考えいただきたいと思っております。

当時は市が計画を作って、計画的に緑を植えて、道路をつくったということですが、これからそこを礎として、どのように市民の方、事業者の方も含めて、魅力ある空間と一緒に作っていくかということだと思います。一緒に作っていくことによって、行ってみたい、関わってみたい、という想いや、呉らしさに繋がっていくと思います。また、外から来た方が歩きたくなる仕掛けみたいなものも、連続した場所なので必要なのではないかと思います。

最後に、名前の話がありましたが、この検討は元々中央公園のリニューアルという検討でスタートしていたのですが、昭和58年からの整備では、蔵本通りを含めてリニューアルしたこともあり、また、川向こうの堺川通りのこともありますし、公園、広場というのは周りを取り囲む建物も含めて空間なので、中央公園という名前だけでなく、もう少し広がりのある空間を検討の対象として広げられないかということで、「まちなか公共空間」という名前にしました。「まちなか公共空間」に何か名前を付けることで、今後、より一層大事に育てていける空間になるのではないかという感想を持ちました。委員の皆さまにおかれましては、引き続きよろしく願いいたします。

16:40

【閉会】